国語科「国語総合（古典）」授業実践紹介

授業者：長谷川　喜代美
学　年：　　1年
単元名：『宇治拾遺物語』「絵仏師良秀」

単元のねらい

①良秀がどのような人物か読み取ることができる。
②筆者が最後の一文を書いた意図を個人で考え、班での意見をまとめ発表することができる。

単元の流れ

①単語の意味を調べながら、良秀の言動を読み取っていきます。（3 時間）

②良秀の言動を時系列で整理し確認していきます。（１時間）

③良秀の言動を理解したうえで、筆者の意図を個人で考え、班で意見をまとめます。（1 時間）

④班の意見を発表し意見を共有し、振り返りをします。（1 時間）

単元のルーブリック

	2	1	0
Ⅲ　書く	最後の一文を入れた筆者の意図を根拠も含め示して説明することができる。	最後の一文を入れた筆者の意図を説明することができる。	最後の一文を入れた筆者の意図を説明することができない。
Ⅳ　読む	良秀と周囲の言動を読み取り、時系列に沿って全て説明することができる。	良秀と周囲の言動を読み取り、時系列に沿ってほぼ説明することができる。	良秀と周囲の言動を読み取り、時系列に沿って全て説明することができない。
Ⅴ　知識・理解	古文単語の読み・意味を正確に理解することができる。（テストで 8 割以上）	古文単語の読み・意味を理解することができる。（テストで 6 割以上）	古文単語の読み・意味を充分に理解することができなかった。

単元を通して身につけてほしいこと

班で協力して、ｉＰａｄで意味を調べたり口語訳を探したりながら理解を深め、良秀がどんな人物かを知った上で、作者が最後の一文を書いた意味を考えてほしいと思っています。同じ人物であってもいろいろな面を持っていることを理解し、人の心情や思索などには時代を超えても変わらないものがあることを知ってほしいと考えています。

実践の背景

　まだ、古典に慣れていない生徒にとって読解を中心とした授業では内容を理解しきれない状態です。班活動を通して、分からない箇所が有っても協力して内容を把握できるということを実感することを目標としています。また、表現する力を養うために各班内・クラス内での発表を取り入れ、より活発な言語活動を行うことも目標に取り組んでいます。

授業改善のアプローチ

●学習課題を最初に提示することで、単に内容が把握できればよいというわけではないことを知らせ、課題を考えながら内容を把握させたいと考えました。
●古典の中に登場する人物が現代人とまったく異なるわけではなく、いろいろな面を持つ人間だということを読み取ることができるように、班活動を行いました。それぞれの役割を果たし協力することで班としての考えをまとめる活動を入れました。

単元の構成

第１次（３時間）	第２次（１時間）	第３次（１時間）	第４次（１時間）
単語の意味を調べながら、良秀の言動を読み取っていきます。	良秀の言動を時系列で整理し確認していきます。	良秀の言動を理解したうえで、筆者の意図を個人で考え、班で意見をまとめます。	班の意見を発表し意見を共有し、振り返りをします。

単元のヤマ場となる授業場面

グループで発表することで、人前に立つことに慣れることから始めています。

学習課題

最後の「**そののちにや、良秀がよぢり不動とて、今に人々めで合へり。**」という一文を書いた筆者の意図を理由を示して説明することができる。

評価

①　学習課題に対する評価（１０%）
②　一枚ポートフォリオ等に対する評価（２０%）
③　授業プリント・課題等（２０%）
④　定期考査による評価（５０%）

一枚ポートフォリオの生徒記述

○良秀はとても自己中心的な人間だけど作者は自己中心的な人というところだけでなく今でも賞賛される絵を描く人だと書いている。だから、見方や視点を変えてみればいい面もあるということだ。
○良秀は心配してくれる人を悪く言うところはあるけれども、見方を変えればすばらしい才能の持ち主である。口が軽いのも見方を変えれば正直者というプラスにとらえる事も出来る。良秀だけでなく自分がやっている行動も良いと思ってしていることも見方を変えれば悪い行動になってしまうと思う。